

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成25年11月21日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2790500033		
法人名	社会福祉法人 高陽会		
事業所名	グループホームのぞみ野		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府和泉市のぞみ野3丁目1189-15		
自己評価作成日	平成25年10月7日	評価結果市町村受理日	平成25年12月18日

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/index.pl">http://www.kaigokensaku.jp/27/index.pl</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797番地
訪問調査日	平成25年10月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のぞみ野は、閑静な住宅街の中にあり、医療・理容室・飲食店などの生活の拠点が整っています。地域活動時などは近隣の方から声をかけて頂けるなど温かく見守って頂いています。ホームは地域の方との交流の場を作るよう努め、地域の方々の協力を頂きながら様々な地域の催しへ参加しています。ホームを拠点に利用者の方と一緒に出かけるをモットーに地域生活との「縁」を繋げる生活を大切にしています。「食生活」は買い物から調理まで職員、利用者と一緒に日々行っています。安心と安全に配慮しながら一人一人の利用者の方が状態、状況に応じて日常生活での役割をもてるよう支援しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームのぞみ野は和泉中央駅から徒歩圏内にあり、大学、医療機関、商業施設など充実した新興住宅地に位置している。小規模多機能型居宅介護事業所を併設し、玄関は共有している。建物内の壁と床は茶系と白を基調とした配色になっていて明るくまとまっている。日に2回トイレ掃除を行うなど衛生面にも十分な配慮が伺え、臭いもなく快適に過ごすことができる。事業所の基本理念として「その人の生き方を尊重します。1. 個人を尊重した生活であること。2. 生活の質の向上に努め、安全で適切な暮らしの場であること。3. 家族の健康な生活を支え、信頼と満足を得られるグループホームであること。」を掲げ、秋祭りや地域の催しに利用者とともに参加したり、外食行事には地元の飲食店を利用するなど積極的な地域交流に努めている。法人でISO9001を取得しており、年間6回実施する内部研修では、欠席者のフォローアップは勿論、研修終了時に全員に受講レポートの提出を義務付け、感想、チャレンジ目標、指導担当者からの所見など記入し、受講効果を高める工夫を行っている。また、毎月「のぞみ野日和」(併設の小規模多機能型居宅介護事業所と共同製作)を発行し、利用者の事業所での暮らしぶりを家族に伝えており、運営推進会議への家族参加や家族来訪時の面談など、利用者家族との交流も積極的に行っている。さらに事業所では、年1回家族アンケート調査を実施し、そこで寄せられた多くの意見や要望を日々のサービスに反映できるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・基本方針は職員手帳に事業所理念は玄関ホール、職員事務所に掲示し共有している。	事業所は法人理念・目的・基本方針とともに、事業所独自の基本理念をつくっている。この基本理念は、入職時の研修で周知させる他、玄関ホールや事務室など事業所内に掲示することにより、職員間で基本理念の共有に努め、日々の理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長や民生委員の方からイベントの情報を頂き、参加させて頂いている。	自治会に加入し、職員は年末の夜警や年2回の清掃など地域の活動に積極的に参加している。また、いきいきサロンや自治会館での催し、桃山学院大学で開催されるのぞみ野夏祭などの地域の行事にも利用者とともに参加したり、事業所行事に地域のボランティアや地域住民を招くなど、地域との日常的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方の施設訪問の受け入れや、認知症についての地域での勉強会の講師派遣等ができる体制を引いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業報告、意見交換、情報収集を行いホーム運営に生かしている。地域の行事には積極的に参加している。	運営推進会議は、2ヶ月ごとに開催している。自治会長、民生委員、和泉市担当者、家族代表が出席し、和やかな雰囲気の中で、活発な意見交換を行っている。議事録はファイルし、職員がいつでも閲覧できる状態にある。また会議の内容は、会議当日の申し送り時に職員に伝えている。	会議内容は議事録で全職員が閲覧可能な状態にあるものの、その内容を十分に把握しているとは言い難い。意見等がサービスにより反映できるためにも、全職員が会議後直ちに議事録を閲覧し、十分な情報の共有が図れるよう、取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	電話連絡等で済ませることなく訪問して報告、連絡するよう心掛けている。	介護認定の更新時などを機会と捉えて市担当者を訪問し、連携に心掛けている。また、市の担当者からの事業所の空き具合などの問い合わせがあった際にも事業所の運営状況等を報告している。さらに、管理者は包括支援センターが主催する2ヵ月ごとの地域ケア会議に積極的に参加し、情報交換を行っている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修の実施や日々のミーティングの中で学び身体拘束しないケアの実践を行っています。また、玄関の施錠については、日中施錠しておらず職員間の見守りとセンサーにて対応している。</p>	<p>入職時及び年に1回の内部研修を実施している。また、日々のミーティングの中で身体拘束となる行為を確認しており、特にスピーチロック（言葉による行動抑制）がないよう日頃から職員間で注意し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。玄関は日中施錠していない。職員による見守りとセンサー（2階出入口）設置で対応している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修を行うとともに日々のミーティングや会話の中でどういう状況が虐待や拘束につながるのかを話し合う機会を持つようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護、成年後見制度の外部研修に参加し参加者により報告会を開いている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>施設見学、相談、契約には管理者又は計画作成担当者が必ず同席し、家族の相談、疑問について答えている。また、契約時の重要事項について納得いただき契約書に署名、捺印を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に入居者及び家族の代表者が参加できるように配慮している。また、年に1回アンケート調査を実施して運営に反映させるように努めている。</p>	<p>年に1回利用者家族を対象にしたアンケート調査を実施し、多くの意見や要望が事業所に寄せられている。内容は全職員が閲覧し、改善が必要なものはミーティングや申し送り時に話し合い、運営に反映できるようにしている。また、運営推進会議には利用者家族が参加し、自治会長や民生委員など他の参加者へ意見を述べる機会を設けている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ミーティング時の話し合いの場で個人の意見を出してもらっている。また、様々な企画の立案は職員に任せて管理者・運営責任者は安全面の確認を中心に行っている。</p>	<p>日頃から管理者は職員の提案等を聴く機会を設けている。行事等の様々な企画については立案から実施に至るまで、職員主導で行っている。また、年に1回管理者は職員と個人面談を行い、個人的な希望を含めて、意見を聴き取り、それらを運営に反映させている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年に1回の自己評価で職員の意識、向上心の把握を行い、個人面談を実施をすることで就業環境の整備をしている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時の基礎研修、内部研修（年6回）、外部研修は研修内容や経験に応じて積極的に参加している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市内の地域ケア会議に参加して情報交換を行い、職員も参加できるよう配慮している。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所時の聞き取りの中でアセスメント、カンファレンスを行っています。また、入所しばらくは一緒に過ごす時間を多く持っています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所時の聞き取りの中でアセスメント、カンファレンスを行っています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時にその方に今一番必要とするサービスを家族と共に考え、必要とあらば他のサービスを紹介する。</p>		

18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との日常の会話から今までの生活の様子、嗜好を聞きながら、あくまで本人中心の支援をしている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じ入居者には家族の話を、家族には訪問時や便りを通じて様子を伝えるよう努め入居者と家族の良い関係が継続するように支援している。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所まで親しくしていた方の訪問を家族に勧めたり、会話によくでる近隣の場所にでかけるよう配慮している。	これまで利用者と親しい関係であった人には、家族を通じて連絡をとり、訪問してもらえるよう伝えている。また、馴染みの美容院や喫茶店などには職員が同行して出掛ける機会を作っている。その他、寺院や商業施設などの馴染みの場所には、利用者の希望に応じて職員と一緒に出掛けている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活に支障がでないよう時には職員が間に入ったり、馴染みの人が一人でも多くできる様対応している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時又は契約終了後も家族と連絡を取るようになっている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回時のアセスメントやミーティング時で問題点や希望を把握しその人らしい生活が継続していける様支援している。	利用者の暮らし方の希望や意向は、日頃の会話を通じて把握する他、家族から聴き取っている。把握した内容は申し送り記録や個人カルテに記入し、職員間で情報の共有を行っている。盆栽を持ち込んで水やりをしたり、裁縫や編み物など趣味の道具などを持ってきてもらうなど、本人本位の支援に努めている。	
----	---	---	--	--

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	訪問調査時に本人や家族の希望、意向を伺いケアプランに反映させ、職員の共有の認識としている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人カルテを詳細に記入し、職員が情報を共有することにより、一日の過ごし方や心身状態の把握に努めている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前のアセスメントでは家族、サービス関係者より沢山の情報入手し、安心して生活していただける様介護計画に反映するようにしている。	カンファレンスには、利用者本人、家族の他、主治医や看護師などが参加している。介護計画は定期的にモニタリングを実施し、設定された期間ごとに見直しを実施している。また心身の状態に変化がみられた場合にも随時の見直しを行い介護計画に反映させている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテは個人別に記録しカンファレンスを行いその情報をもとにケアプランに反映させている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の利点を生かしご家族の希望に添えるような柔軟な対応をしている。入所前に何度もお越し頂き環境に慣れて頂いたケースもある。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公共施設利用時の配慮等お願いしている。介護相談員（民生委員）の方にも訪問して頂いている。		

30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入所時の説明時に家族の希望を伺い その意向で支援している。	入居時に利用者・家族の希望を聞いてか かりつけ医を選択してもらうようにしてい る。しかし、毎週水曜日に協力医（内科） の訪問診療があり、全ての利用者が協力医 をかかりつけ医としている。その他の専門 医や歯科へは原則として家族が同行し通院 しているが、不可能な時は職員が同行して いる。受診結果は受診記録に記録し、職員 間で共有している。家族等には電話で報告 している。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるよう支援し ている	かかりつけ医の看護職との関わりを 大切にし、ホームでの状況を伝え助 言を頂いたり、馴染みの関係づくり を大切にしている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には定期的な訪問を行い担当 医と情報交換をしている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階から症状の変化 があった場合家族と将来の希望を話 し合うようにしている。	自立歩行できることを入居の条件としてお り、基本的に看取りは行わない方針であ る。重度化や医療的処置が必要になり、事 業所で看ることが困難になった場合は、か かりつけ医の判断を仰ぎ、医療機関を紹 介している。重度化や終末期の対応方針は文 書化していない。	事業所内で看取りが実施できない場 合であっても、重度化や終末期医療 が必要になった際の対応方針を文書 化し、事業所の考え方を明確にして おくことが望ましい。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や緊急対応マニュアルに よって徹底している。		

35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害、防災マニュアルを基に職員間で周知している。消防訓練も実施している。運営推進会議に於いて、地域の代表の方々に協力もお願いしている。	事務所内に災害や震災時の緊急連絡先や手順を分かりやすく掲示している。年2回防災訓練を行っている。火災を想定した実践的な訓練で、初期消火・連絡誘導・水消火器・救命救急(AEDの使い方)や、夜間を想定した訓練を実施している。ただし、災害発生時の地域との協力体制の話合いが十分ではなく、今後の課題である。備蓄はできていない。	災害発生時には地域の協力が不可欠であり、できる限り早期に地域との協力体制の構築が望まれる。運営推進会議においてこれまで以上に災害対策の話し合いをもつとともに、事業所の防災訓練に地域住民の参加を呼び掛けるなど、積極的な取り組みを期待したい。また、備蓄の検討も喫緊の課題である。
----	----	--	---	---	---

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の虐待や個人情報の扱いについて日頃のミーティングで話している。	職員は一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心掛けている。外出時は利用者の服装に配慮したり、人前であからさまに誘導の声かけや介護をせずに、目立たずさり気ない対応をするように心がけている。個人記録等は事務所の鍵のかかるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるかぎり選択して頂けるよう押し付けの援助を避けるようしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	小規模の利点を生かし入居者のペースに合わしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の能力ごとに支援している。理容、美容については、家族とコミュニケーションをとり援助している。		



40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事については買出し、下ごしらえ、盛り付け、後かたづけ、と様々な場面で入居者の能力に応じ支援している。「食」の提供方法を多様に考えている。</p>	<p>献立は、一週間単位で担当職員が決めている。利用者からの希望等でメニューの変更も行っている。毎日の食事日誌に食事を作って検食した職員が所見と改良点を記入し、次回の調理に活かしている。食材は毎日利用者と職員と一緒に近くのスーパーマーケットに買い物に出かけており、下ごしらえ、盛り付け、後片付け等も一緒にやっている。こだわりの陶器の食器を使用し、茶碗、お箸、湯のみ等は一人ひとり使い慣れたものを使用している。テラスで食事をしたりバイキング、出前、外食(年6回)なども取り入れている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個人別に食事摂取量と水分管理のチェック表を用いて、日々の観察をしています。また月初には体重測定も行っています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>援助の必要な方には、適切な声かけと援助を行っています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>ミーティングで話し合い入居者の能力に応じた支援をしている。</p>	<p>排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。全員が布パンツで過ごせるように目標を持ちながらそれぞれに応じた支援を実践している。夜間は声かけをしてトイレ誘導をしている。夜間も照明を付けてトイレの位置が分かるようにしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェック表で個別に観察しています。ほとんどの方には乳性品やフルーツの摂取等を行っている。</p>		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴は曜日や時間、間隔を決めずに楽しんで頂いてる。</p>	<p>入浴は基本隔日としている。仲の良い利用者が一緒に入浴することもある。浴槽の湯はかけ流しのため、利用者ごとの入れ換えはしていない。また、柚子湯、しょうぶ湯等季節感を楽しめる工夫をしている。下着の着脱時は身体をタオルで覆ったり、同性介助とするなど利用者に配慮した対応をしている。入浴拒否があったり、グループホームの浴室では対応困難な利用者は設備の整った併設事業所の浴室での入浴を支援している。職員体制により夜間の入浴も可能である。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>環境の整備を行ったり、入居者の方の生活のリズムを整えるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方されている薬の説明書を個人カルテに表示し作用、副作用の確認をしている。薬は分かりやすく管理し、服薬チェック表に記入し管理している。また症状の変化の確認も行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個人個人の生活歴や一日の過ごし方の状況を生かし定期的な企画（外食、バイキング、映画の日、散歩、ドライブ）や季節ごとの企画を取り入れている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>日々の食材の買い物、散歩、嗜好品の買い物は頻繁におこなっている。また外食等の企画は月一回は最低行っている。</p>	<p>毎日午後近くのスーパーマーケットへの買い物や近隣の住宅街への散歩等に出かけている。百貨店や公園、寺院、愛菜ランド、喫茶店、乗馬クラブなどに出かけることもある。外食には地元の飲食店を利用し、トイレ等車椅子で行きやすいかどうか店内環境を下見してから出かけている。</p>	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己にて管理できる方には所持して頂き、外食や買い物時に使用してもらっている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をかけたいと希望の場合はかけに行き手紙の場合は返信できるようにしている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>状況に応じた照明の点灯パターンをつくっている。また季節感を感じられる生け花や掲示物をリビングや玄関ホールに用意している。</p>	<p>事業所内は明るい茶系の空間が広がり、温かみのある手芸作品や生け花などを飾っていて、季節感を感じ取れる工夫をしている。食堂とは別区画で設置しているリビングルームでは、ソファで寛ぎながら、テレビや歌番組などのビデオ鑑賞を楽しめる場となっている。共用トイレは一日2回こまめに掃除を行うことで、臭いの無い快適な環境を提供している。オリーブなどの樹木に囲まれた日当たりの良い庭にはお洒落なテラスがあり、芝生の緑と相俟ってとても居心地のいい場所となっている。また、一面に畑を設け、季節の旬の野菜を栽培していて水やりや収穫などを利用者と一緒に楽しむことができる。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者の方には居室、ダイニング、リビング、玄関ホールで気の合う方、家族との面談、又は一人で過ごしていただいている。また晴れた日には、中庭のベランダにテーブルを用意しているのでそこでも過ごされている。</p>		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時の説明で今までの使い慣れた馴染みのある家具類等持ってきて頂けるよう説明している。</p>	<p>職員が居室を掃除している。居室の入り口には利用者が自分の部屋がよくわかる様に好みの飾りをつけている。居室には時計、ソファ、クッション、大切にしてきた着物の生地で作ったタペストリー、家族の写真、ぬいぐるみ、ラジカセ、テレビ等を持ち込みその人らしい居室作りをしている。居室には鍵が設置されており、利用者のプライバシーが確保されている。鍵は緊急時に外部から開錠できる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室には入居者の方の目印になるものを表札がわりに出している。またトイレには表示と照明の工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができてきている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない